



表 (%)

就職先アンケートは当校の6つのディプロマポリシーに基づき構成し16の質問に変更し実施した。令和5年10月就職し半年経過しての結果である。評価尺度は満足、ほぼ満足、やや不満、不満の4段階。
満足、ほぼ満足が85～90%・・・
dp1 仕事に主体的に取り組む姿勢75% 仕事を継続しようとする姿勢93%
dp2 自己の能力を評価し成長しようとする力 72% 安全に実践するための基本的知識・技術68%
dp4 相手を尊重し誠実な対応85% 一般常識90% 仕事をする部署での規律の遵守・倫理観78%である。
dp6 職場で自分の役割・価値を見出し努力する姿勢 71%
このことは、
dp1 地域医療に貢献する姿勢、dp2 専門的知識・技能を活用する力、dp4 専門職業人として運用する能力dp6 自己の看護観が持てるは概ね70%以上の評価を得られた考える。地域の病院に97%が就職した結果であり、少なからず身近な人の看護を実践し地域医療に貢献できたと考える。
その中で満足、ほぼ満足が29～50%代で最も低いのは
dp1 周りに助けを求める姿勢 57%
dp2 個別な実際の場面で実践する力43%
dp3 状況判断能力36% 課題の把握と問題解決能力43%
dp5 適切なインフォームドコンセント実践29% 患者のニーズを引き出す力43% 他者の意見を理解し自分の意見を表現する力43%である。
特にdp5のコミュニケーション力 dp3の情報収集・分析力 dp2専門的知識・技能を活用する力 の低さが目立つ。どれも専門職として重要と捉え3年間で培った力である。新型コロナウイルス感染症の影響で、日程や人数等制約の中で何とかカリキュラムは終了している。学んだ知識から実際に対象を観察して判断すること、課題を把握し解決するために確認や相談する力は弱かったと考える。又dp2自己の能力を評価し成長しようとする力72% ではあるが半面自己評価が高いともいえる。在学中からその傾向はあると感じる。又今年度、「不満」の項目について、複数つく学生と概ねすべての項目につく学生がいる。dp3の情報収集・分析力 dp1周りに助けを求める姿勢 である。意図が伝わらない、自己評価も高いので周りに助けを求めない学生像が浮かぶ。求めていることに到達するための方略は課題である。